

## 桑原地区タウンミーティング(要約)

テーマ：桑原地区のまちづくりについて

平成28年4月20日（水曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は水曜日の夜です。平日ということ  
で皆さん何かとお忙しかったのではないかなと思いますが、この桑原地区  
のタウンミーティングにお集まりいただき、まことにありがとうございます  
です。この桑原地区のタウンミーティングの開催にあたり、まちづくり協  
会の会長さんをはじめ、役員の皆様のお力添えをいただきました。あり  
がとうございます。このタウンミーティングは、私が市長に就任をさせて  
いただいてから始めさせていただきました。どちらが楽かという、皆さん  
が市役所に来られるのを待っているほうが楽です。でも、果たしてそれ  
いいのでしょうか。松山市内にはこの桑原地区をはじめ全部で41地区あ  
りますが、我々が41の地区に出向き話を聞かせていただこう、魅力を教  
えてもらって、魅力は伸ばそう、課題は減らそう、ということでタウンミ  
ーティングを重ねてきました。市長の任期は1期4年、月に直すと48カ  
月です。松山市内は41地区に分かれますので、1カ月に1回のペースで  
回っていこうと思っていたのですが、おかげで好評になり、1期4年で4  
1地区を2巡り、延べでいうと82地区回らせていただきました。2期目  
も継続をさせていただこうということで、この地区別のタウンミーティ  
ングに加え、職業別と世代別のタウンミーティングを行っています。世代  
別は、子育て世代の方に集まっていたり、まだできていないのですが  
人生の先輩方であるシルバー世代の方々に集まっていただく世代別タ  
ウンミーティングもしたいと思っていますし、大学生とのタウンミーティ  
ングもさせていただきました。また、職業別のタウンミーティングも開催  
していますが、農業に関する方々や商店街の方々に集まっていたり  
というタウンミーティングも重ねています。できるだけこの場でお答えを  
して帰りますけども、中には国や愛媛県と関係する案件や財政的な問題が  
あるもの、そのようなものはいい加減な返事をして帰るわけにはいきま  
せんので、いったん持ち帰らせていただいて、1カ月をめぐりに必ずお返  
事をするというのが、この松山市版のタウンミーティングの特徴です。  
聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしない、できることから反  
映するのが松山市版のタウンミーティングの特徴です。肩ひじ張って緊  
張するとしんどくなりますので、今日も皆さんと90分間あまり肩ひじ  
を張らずに、いい意見交換ができればと思います。どうぞよろしくお願  
いいたします。

【司会】 それでは、テーマ趣旨説明について市長からご説明いたします。

【市長】 本日のテーマは、地元のまちづくり協議会さんとも話をさせていただき、「若い世代のまちづくりへの参加と地域活動の活性化」とさせていただきました。皆さんご存知のように、近ごろは少子高齢化や核家族化、ご近所さんのつながりが薄くなっているといわれています。そうなるとうちや防災の面でも不安が出てきますし、また、地域の文化や伝統を継承していく面でも不安が出てくると思います。桑原地区のまちづくり協議会さんは市内でも早く4番目に結成をされています。桑原地区さんがすごいと思うことは、青壮年有志の会や学生部ができたり、幅広い世代の方がまちづくりに参加されていることです。これは41地区の中でも桑原地区さんの特筆すべきところではないかと思えます。若い世代の方々にまちづくりに積極的にご参加いただいたら、また、さまざまな世代の方と交流を深めることができたらまちづくりの輪が広がると思えます。まちづくりの担い手が順次、次の世代へバトンタッチされることで、さらに地域活動も活発化されるのではないかなと思ひ、今日はこのテーマにさせていただきました。これまでのタウンミーティングは、1巡目が平成23年の5月17日、2巡目は平成25年6月9日に行わせていただきました。これまでの2回のタウンミーティングでたくさんのご意見をいただき、その対応状況のご報告をさせていただきます。まず、淡路ヶ峠の整備ですが、この2回のタウンミーティングで淡路ヶ峠の整備についてたくさんご要望いただき、皆さんの淡路ヶ峠への思いを強く感じることができました。私も中学校の横の登山道から頂上に登って、展望台から市内の眺めを見て素晴らしいなと思ったことをよく覚えています。平成24年には、松山市の「地域の宝みがきサポート事業補助金」をご利用いただいて、まちづくり協議会さんを中心にルートの案内図や眺望景観図などを設置され、3ルートの遊歩道が完成したと伺っています。実はすでにご活用いただいた「地域の宝みがきサポート事業補助金」は1地区1回しかご利用いただけませんが、拡大をしました。今年の4月から1地区3回まで利用できるように制度を改正しましたので、再度活用をご検討いただけたらと思います。また、淡路ヶ峠に俳句ポストや固定式のベンチを設置してほしいとの要望を桑原地区からいただきました。松山市の観光俳句ポストと国際ソロプチミスト松山に寄付していただいたベンチを3年前の10月に設置することができました。地域の皆さんが登山道3ルートの整備と頂上の展望台の管理を継続的に行っているとお聞きしています。これからも地域のシンボルとしてさらに磨きあげていってほしいと思います。伊藤博文公ゆかりの

地ですので、ぜひとも大事にしていただけたらと思いますし、市もできる限り協力をさせていただきたいと思っています。また、この会場の桑原公民館本館をバリアフリーにしてほしいとのご意見もいただきました。そこで皆さんご存知のように、平成26年に耐震化工事と合わせて、入口の段差解消などのバリアフリー化工事を実施し、前は古いトイレでしたが、多目的トイレを設置し、去年の2月に完成をしました。また、桑原分団のポンプ蔵置所の建て替えのご質問もいただいていた。これも今動きがあります。桑原のポンプ蔵置所ですが、地域の方と協議をさせていただいて、正円寺と桑原の2カ所を統合して、新たに用地が確保でき、現在、十分な耐震性を持つ建物の整備に向けた設計を進めているところです。今年の秋ごろには完成をする見込みですので、地域の安全安心がさらに高まるものと思っています。ご報告をさせていただきました。

【男性】 淡路ヶ峠整備協議会の者です。淡路ヶ峠の頂上に市のご厚意で平成9年に展望台を設置していただきました。現在、約20年経っていてかなり老朽化しています。我々スタッフも高齢化してしまっていて、スタッフも年がきて亡くなっていく人もいますし、年になって仕事ができんぞというようなことで退かれていく人もいます。そういったことで、本日の主たる議題である若い人たちの参加をぜひともお願いしたいと考えていますが、なかなか思うようにはいきません。まちづくり協議会でも青年部をつくったように、畑寺では30年ぐらい前から愛町クラブというものをつくり、活動を続けています。この若者のグループは、町内の事業があるごとに、若い人を見つけると声をかけて参加を呼びかけ、今50人ぐらいのメンバーで活動しています。中学校の長距離歩行などの応援もしています。淡路ヶ峠に関しては、先ほども申しましたように施設の老朽化が非常に心配されています。また心ない方の中には、これを傷めたり、上で火を燃やしたりすることもあると大変ですが、いずれ時が経つにしたがってますます老朽化が激しくなり、大きな改修をしないといけないような状態も起こるのかと思います。先ほどご説明にあった事業助成金が3回ということでしたが、その3回分をまとめて1回ということにはなりませんでしょうか。

【市長】 今年度、1回のところを3回に緩和しました。前回の実績を見ましたら、平成24年度に淡路ヶ峠の3つの登山道のルート案内図、注意事項などの啓発看板、山頂展望台への眺望景観図の整備ということで、補助額が30万円出ています。たぶんほかの地区さんも応募してこられるところがあるかと思いますが、何で桑原さんだけ2つにまとめるんですかという話が想像できるので、まずは1回ずつという形になろうかと思いま

す。また、ありがたいことに銀行さんの補助制度で、伊予銀行さんの「地域文化活動助成制度」とか、愛媛銀行さんの「愛媛銀行ふるさと振興基金の助成事業」などがあります。地区で計画がまとまり、ご相談をいただきましたら、行政からサポートする形もありますし、銀行さんのサポート制度もありますので、またご紹介ができたらと思います。

【市民部長】 市民部です。今まで1回だったものを3回にというのは、色んな要望があつてこのように変えたのだらうと思います。1つの地区に1度で後がなくなってしまう、まとめてしまうということはおそらく趣旨と違うのではないかなと思いますが、誤ったことを申してもいけませんので、確認をして、回答させていただきたいと思います。

【市長】 改修したいという思いが皆さんおありでしたら、あらかじめ相談いただいたら、色んなことをお伝えすることができるとと思います。部署は坂の上の雲まちづくりチームですので、そちらにご遠慮なく相談していただけたらと思います。

【男性】 今日のテーマは、若い世代のまちづくりへの参加ということですが、これは桑原に限ったことではなく、どの地域も若い世代がまちづくりに参加しないという悩みを持っているそうです。そこに視点を持っていくのではなく、私はこの桑原に住むことが若者にとってどんなに誇りが持てるかということだと思います。そのまちに誇りを持っていれば、若者たちはどんどん、まちづくりに参加してくると思います。そういったものを積極的に地域住民がつくっていかねばならないと私は考えます。そこで先ほどもありましたように、淡路ヶ峠も桑原の誇れるものでありますし、そして桑原中学校ができて以来ずっと行っています50キロメートルのチャレンジ歩行、これも桑原の自慢できるものだと思います。そして、松山城があり、淡路ヶ峠があり、この桑原には東野お茶屋跡というのがあります。これを放っておく手はないと思います。市長さんに桑原郷土史を見ていただいたらと思うんですが。その28ページに東野お茶屋跡が載っています。お茶屋跡には池も残っています。非常に静かなところで、そこには観音堂もあり、今愛媛県の研修所が建っていますので、県との交渉にもなるかと思います。いずれは松山城があり、そして東野お茶屋跡を観光の目玉にして、桑原にはこういういいところがあるので、そういったまちづくりをどんどん進めていけば、若者もどんどん参加してもらえんじゃないかと考えていますので、市政を考えていく上で、参考にしていただけたらと思います。

【市長】 教えてください。基本的なことで申しわけないのですが、今御

茶屋跡はどなたが所有しているのですか。

【男性】 愛媛県です。愛媛県の研修所があります。そこに池があって、観音堂があり、吟松庵までずっと広大な土地だったんですけども、そこに東海道五十三次を殿様の定行公がつくっておられて、そこに巨大な邸宅があったということで、それをもっと松山市の観光に生かしていただいたらと思います。

【市長】 わかりました。ありがとうございます。今日、ありがたいことに桑原のタウンミーティングは若い方が結構来てくれていると思いました。若い方も含めて、別に知らないことが恥ずかしいことではないので聞いてみたいと思いますが、淡路ヶ峠に登ったことがあるという方は手を挙げていただけますか。皆さん登ったことがあるんですね。ありがとうございます。登山道を皆さんがつくったというのがまたすばらしいところです。それと、お茶屋跡は、末代のお殿様の別荘といいますか、隠居所というのを知っているよという人は手を挙げてもらえますか。なるほど、わかりました。ありがとうございます。今日、ぜひともお願いしたいと思ったのは、高校を卒業して大学や就職で県外に行ってしまう方もいらっしゃるでしょうが、桑原にお住まいの18歳ぐらいまでの方には桑原にどんな名所があって、そこがどういう場所なのか、歴史的なものであれば、どういう歴史があるところなのかを知っていただき、そこを訪ねてもらうことが、まちづくりに参加してもらうことの1つにもなろうかと思っています。桑原の人が桑原を自慢しないと、じゃあどこの地区の人がほめてくれるんですかということになります。例えば近所の地区の方が、桑原いいよねとほめることはあると思いますけれども、やはり桑原にお住まいの方が自分のまちを好きにならないといけないと思うんですね。その地区にとどまってもらおうと思ったら、桑原のことを知ってもらう試みが大事だと思います。私もお茶屋跡について勉強させていただきませうけれども、皆さんがお茶屋跡ってこういうところなんだよとなれば、より桑原への愛着や誇りにつながっていくと思いますので、行政もするし、地区の皆さんもやるしという形にできればまたよいのではないかなと思います。

【男性】 先ほどお話があった淡路ヶ峠ですが、我々もメンテナンスでいろいろと修理しているんですけど、ところどころ座がぬけています。補修をしていくつもりではいますが、あそこに人がたくさん登って崩れたら危ないので、全体の安全性など我々素人の目では行き届かないところを行政側でプロの目を入れてもらうことはできませんか。

【都市・交通計画課長】 松山にも同じような山道というか、遊歩道みた

いなところは何か所かあります。もし、土木技師にそのようなところを見てほしいというのであれば、一度見ることはできると思います。展望台も見に行くのは大丈夫だと思います。それから後のことは、いろいろ検討し、修理等については関係部署と話さないといけないことが出てくると思います。

【市長】 市役所には、公共建築など建物を見る専門家がいますので、行って見ることは可能だと思います。それで強度がどれぐらいとか、お伝えできると思います。もつから部分改修にしようとか、もたないなら全面改修にしようとか、当然お考えも変わってきますよね。行くことは可能ですのでご心配なく。

【男性】 今日のテーマは「若い世代のまちづくりへの参加」ということですが、やはり若い世代にまちづくりに参加してもらい、関心を持ってもらうというのは、将来的にも課題だと思います。そういう担い手をどう育成するかということで、先ほど、市長も触れられました「青壮年有志の会」が桑原地区に発足しました。これは、町内の行事などで担い手になっている人たちが一緒になって、大きい形になって何かできないかということで始まりました。課題を一緒に考えたり魅力づくりをしたり、何かできることをやっていこうとスタートしたところで、これからどういうことをしようかと考えています。私たちも、色んな町内の行事で参加してみませんかとお声掛けしていますし、行ってみて楽しいものであれば、人とのつながりができ人が寄ってくるのではないかと思います。そのような努力をしていく中で、若い人たちの活動に注目していただいて、市長はマスコミの関係もありましたし、市政で広報番組も持っていらっしゃると思いますので、例えば、地域の若い世代や活動している人たちに視点を当てて何かの形で取り上げていただくことをお願いできたらなと思います。また、何か新しくこんなことがいいんじゃないとか、市長のお考えがありましたら、聞かせていただいたらと思います。

【市長】 松山市、愛媛県もそうですが、愛媛県の広報番組は「愛顔のまちかど」、松山市の広報番組は火曜日の夜ゴールデンタイムにやっていますけれども、ちょうど4月から放送が始まったところです。桑原地区さんは、まちづくり協議会さんが福祉マップをつくられたり、学生や青年の方が加わっていらっしゃるの、皆さんが嫌でなければ、「桑原ではこういう活動をやっているんですよ。若い方も参加してやっていますよ」というのを取り上げて、松山市の広報番組で放送することはできます。再放送もありますし、多くの方が広報番組を見てくださっているの、かなり

の露出になります。それから、我々は、まちづくり協議会の活動を41地区に広げていきたいなと思っているんですが、広げていくためには、こんな活動をしているんですよということを、ほかの地区が知ることが大事なので、まちづくり協議会の活動を松山市の広報番組などでご紹介するのは、まさに我々の思いと一致をるところなので、1つのやり方としては、そういうこともできるかなと思いました。また、松山市は、まちづくり協議会のフェイスブックや、松山市の中で頑張っているまちづくり協議会さんの活動を、ほかの地区に知ってもらうための「地域力パワーアップ大会」を始めました。去年は、北条の市民会館で、頑張っている地区が集まって発表したんですが、そういうところでも発表ができます。とにかく知っていただきたいと思いますので、ご協力をいただけるようでしたら、皆さんの活動を紹介させていただきたいなと思っています。

【男性】 まちづくり協議会の者です。桑原では、青壮年と学生の活動をバックアップするという形で取り組んでいます。昔の青年団の活動自体が弱体化して縮小し、松山市の受け皿でみると、ほぼゼロに近い。今まで青少年センターにあった団体も、今は自然消滅をしているということで、松山市自体がそちらに目が向いていないのかなという気がします。まちづくり協議会のほうで、青壮年部があとあとまでみんなが活動を引き継いでいけるよう頑張っています。学生部は、初めて大学の中でサークルの承認をとって、今日も学生たちが来てくれています。そういう活動を支援していただける体制自体ができないのかなと。松山市さんで何か考えていただけないのかなというのがひとつあります。あとは、学生部の学生に振りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

【市長】 わかりました。学生さんの活動の支援ですね。こちらについてはどうでしょうか。

【市民部長】 市民部です。桑原地区での活動は、松山市の中でも最先端の活動だと思います。大学が地区内にあるということもあると思いますが、学生や青壮年の会の世代の方々を、いかにまちづくりに引き込むかが各地区とも課題になっています。この桑原地区は最先端ですので、桑原地区でされていることを今後各地区に広めていきたいと思っています。その中で、学生の活動に対する支援ですが、財政的な支援では、今は制度的にないですが、まちづくりの中に若者たちが入っていく体制を整えていくためには、まちづくり協議会の中で合意を取っていただいて、まちづくり協議会への交付金をうまく活用していただくとか、そういったところで現時点では考えていただきたいなと思います。

【市長】 たちまちお金という話ではないんですが、松山市は、愛媛大学さんとの協働事業で、「地域づくり支援セミナー」という人を養成する事業をやっています。これは、愛媛大学さんだけではなく大学生や高校生も参加できるものですので、今後地域活動へ関わるきっかけになるものと期待しています。今年度も、10月から11月に開講する予定で、このセミナーの受講者には各地区のまちづくり協議会で活躍している人たちもいらっしゃいますので、学生さんなどご興味があったら、ぜひとも「地域づくり支援セミナー」にご参加いただけたらと思っています。先ほどの、ほかのまちづくりの活動を知ってもらうという「地域力パワーアップ大会」は、今年は6月26日に松山大学で開催しますので、もしよかったら、桑原地区の若者の方も連れて行っていただくと、「ほかの地区はこんなことしよるぜ、桑原もこんなんやってみよか」という1つの促進になろうかと思っておりますので、このような機会も利用していただけたらと思っております。

【男性】 愛媛大学農学部の学生です。市長さんから、始めにご紹介があったように、まちづくり協議会学生部の副部長をさせていただいています。僕は、生まれはこの松山市ではなくて宇和島市で、こっちに引っ越して大学の近くの桑原に住んでいます。僕がこの桑原地区に住んでみて、温かい地域だなというのを一番強く感じました。松山全体で秋祭りは有名なものだと思っていたんですが、去年この秋祭りに参加させてもらって、この桑原地区の畑寺のお神輿と一緒に担がせてもらいました。僕が住んでいる地域は、そういったお祭りは、ほかの地域から引っ越してきた人を入れないというか、自分たちで楽しむものだという感じがする地域なので、ここに引っ越してきて、そうやって一緒にお神輿を担げるなんて思っていなかったもので、とてもいい経験をさせてもらったと思っています。僕も、大学でまちづくりや地域マネジメントを学んでいます。そこに住んでいる人たちが、どういったやりがいを持って生きるのかが一番地域づくりに大切だと学んでいます。地域にある伝統や誇りを、一番その地域に住んでいる人たちが感じるのが、地域が存続していく、長持ちしていくのに大切だと学んでいます。私が学んでいるこの愛媛大学農学部でも、半分以上の学生が県外から来ています。大人になる一歩手前の20代前後の4年間をこの松山の桑原地区で過ごすなら、ぜひともこの桑原をもっと好きになってもらいたいというのが、僕の考えていることです。ですが、桑原地区の学生部の副部長として、みんなを引っ張っていく存在として、なかなかそういった活動に、今の大学生は参加してくれないんですよね。愛媛大学がいくら地域にあって輝く大学というのを掲げていても、学生はなかなかそれ



を実感できないところがあります。そういった中で、人生の先輩である野志市長に、松山市を引っ張っているリーダーとしてのアドバイスなどをいただければと思います。

【市長】 まず、お話を聞いて、よかったですねと思いました。桑原の方は立派だなと思います。私は今年で49歳になりますが、育った地区は清水地区です。父が県職員だったので、県職員住宅という官舎、アパートにいたんですけども、アパートの子どもたちは、地区のお神輿をかきたかったんですが、当時は子どもも多く子ども神輿をかかせてもらえなくて、アパートで酒樽の樽神輿をつくってかいたことがありました。5、6年生ぐらいになって、「かいてもええよ」と言われ、かかせてもらってうれしかったのを覚えています。人の数が変わったこともあるのかもしれませんが、学生さんに「かいてや」と言った桑原地区の皆さんはすばらしいと思います。神輿をかいてどうでしたか。

【男性】 お神輿をかくのは初めてだったので、上にも登らせてもらったりして、人生で初めての経験をさせてもらいました。

【市長】 これはよかったです。皆さんと一緒に拍手をしたいと思います。桑原地区の方は、すばらしかったと思います。東雲大学そして愛媛大学農学部があるのが地区の特徴だと捉えて、その学生さんを受け入れる姿勢があるのは、桑原地区さんのすばらしいところだと思います。お祭りは、色んな世代が入っていきやすいケースですので、お祭りを通して地域のつながりをつくっていただきたいと思います。今市長をさせていただいて5年4カ月ですけども、人が集まりやすい機会は、防災に関するイベントをしたときです。人間は自分の安全については関心が高いので、地区で防災に関するイベントをしたときは、比較的色んな世代が集まりやすいです。そういう防災に関するイベントなどを通じて、ほかの世代に集まっていたくのも大事なことかなと思います。また、桑原の福祉マップのすばらしいところを挙げさせていただきたいんですが、松山東雲短期大学さんと連携してやったところが、すばらしいところだと思います。4年前の平成24年3月に福祉マップが完成したのですが、何を掲載するべきかをまちづくり通信で公募をして、実際に車椅子や乳母車を使用しながら、まち歩きを実施した。机上の空論ではなく、実際に動いて危険性の確認を行ったところが、またすばらしい。地域の企業さんと一緒になって、四国交通さん、愛媛銀行のバイク隊さん、自主防災連合会、地域包括支援センターの協力も得ながら、防災マップは皆さんのご家庭に配られていますけれども、防災マップと一緒にあってはいけないので、別にとということで、病院の連絡先や診療時間などを記して福祉に特化したものにした。平成27年度には、

企業さんの寄附を募って、情報を更新した改訂版を作成したのがこの第2版ですね。今、列挙しましたが、本当に素晴らしい活動だと思います。松山の中でも、ここまで学生さんと連携してできているところは、なかなかないと思います。今、桑原に居ること自体が、素晴らしいことだと思いますので、この活動をつぶさに見ていただいて、できるだけ参加していただいたらと思います。

【男性】 若い世代の話ですが、やはり地域にどんどん入ってきてほしくて、新しい人も引っ越してきて増えてきていますが、そういう人たちをどんどん入れていきたいと思っている中で、地域の行事のときに声をかけて出てきてもらうようにしています。そのときに、行事が終わったあとの親睦会というか、お酒の飲み会で楽しい会話をしたり、しんどければしんどいほど、そのときのお酒がおいしいという、そういう楽しいことをどんどんやっていきたいと思っています。新しく立ち上がった青壮年有志の会の親睦会などでもしたいと思いますので、ぜひ野志市長にもご参加いただきたいのでお願いします。

【市長】 体が空いていてタイミングがあえば大丈夫ですよ。ありがとうございます。私は、現場が好きで、みんなと話をしたいほうなので、案内いただけたらと思います。

【男性】 色んな話ができると思いますので、ぜひよろしくお願いします。

【女性】 学生部に所属しています。地域でイベントがあるのは知っていますが、いつやるのか、詳しい具体的な日にちなどが直前にならないとわからず、アルバイトを入れてしまって参加できないことがあるので、早めに教えてほしいです。あと、まちづくりやそのようなことをしている学生が少ないです。まちづくり協議会の事務局長さんが新生生に対して、まちづくり協議会でこういうことをしているという講演会をしていらっしゃるんで、愛大農学部の学生は知っていますが、本学の学生は知らないという友達が結構多くて、「こういうのやってるよ」というと、「そんなんあるんや」と、そのこと自体驚かれます。まちづくり協議会の活動をほかの地区に広めることも大事だと思いますが、愛媛大学は半分ぐらいが県外から来る大学なので、せつかく若い世代、大事な20代前半のこれからの進路が決まる時代に松山にいるというのは貴重なタイミングだと思うので、まちづくり協議会でまちと深い関わりがつけられるチャンスで、そういうことをやっているというのを地域だけではなくて、若い人たちにももっと知ってもらえるようにするべきではないかなと思いました。

【市長】 これいいですね。私も学生時代のことを思い出しました。私もガソリンスタンドでアルバイトをしていて、洗車や窓を拭いていて、冬にかぎって洗車が増えるんです。冬に洗車が増えたりするとあかぎれができるんです。シフトが入ったりするので、学生さんも結構忙しいんですよ。若者の方もせっかくこの地区に来ているので、その大事な4年間を過ごす地区に愛着ができたなら、大人になってもそこに帰ってきてくれるかもしれません。学生さんも地区のことを考えてくれているのだと思いますが、まちづくり協議会さんから、こういう行事をしているからこういうふうに関後伝えていこうかなとか何かお話ありますか。

【男性】 先ほども学生から言っていたように、今年も4月22日、今週の金曜日に、愛大農学部の学生さん188名に対して、約30分間のまちづくりの説明会と、学生部がサークルになりましたのでサークル勧誘の活動を含めた紹介をします。学生たちは学生部で集まってまちづくりで何ができるかなという話の話し合いをしてくれています。部長が先頭に立って、まちづくり協議会を通して、小中学生に関わっていただけるのかなというところで、意見交換をさせていただいていますので、このあとは、学生さんから今考えていることを言っていたらよくわかると思います。

【市長】 大人の方も認識をされたと思いますが、行事はできるだけ早く言ってあげたらいいんだというのが、共通認識としてできました。こんなにしてくれたら、私たちもっと参加しやすくなるというご意見は何かないですか。

【女性】 先ほどの意見に加えてですが、もう少し早くから年間の行事がわかっていたほうが予定が組めるので、地図などに年間の行事をわかりやすくまとめたマップみたいながあるとおもしろいなと思いました。

【市長】 こういう大人と学生が会話するチャンスは、ものすごく貴重だと思いますので、もしよかったら、ご意見をどうぞ。

【女性】 学生部所属です。大学生のまちづくりへの参加という話ですが、まちづくり協議会の学生部として、細々と活動していたのが、大学に認められてサークル化したので、農学部に関しては、学生と地域のまちづくり協議会の人たちの架け橋みたいな存在に、これから我々になっていければいいのかなと思います。今後、学生部としてどのように桑原地区に還元していただけるか、まちづくりに関わっていただけるかということで、ミーティングを重ねて、やっていきたいことをいろいろ出し合っていますが、今後、小中学校の子どもたちを巻き込んでいければと思います。大学生のまちづく

り参加ということですが、県外の学生が多いので、結局は地元に戻ってしまって桑原に残る学生はあまりいないので、桑原地区の若い人たちを取り込むにはどうしたらいいかは、ちょっと違った話になります。そこで、教育関係では、子どもを取り込んだら子どもに付いてくる親も取り込んでいけるんじゃないかなということを考えています。我々が桑原地区の若い人たちを取り込んでいく事業は、どういうものがあるか、私たちが考えるだけではなくて、地区の方々のニーズにも応えたいと思うので、市長さんのお考えも聞かせていただけたらと思います。

【市長】　すごくいい意見交換だと思います。今、学生さんも行事予定がわかれば、参加したいと思ってくれていることが確認できたのがありがたいなと思います。今、私が言いすぎるのはよくないかなという気がしてきました。よい土壌ができてきているので、皆さんの動きをサポートするのが行政として一番よい形だと思います。いい雰囲気できてきているので、よく意見交換をしていただけたらなと思います。あおるわけではないですが、清水地区には、愛媛大学と松山大学があり、学生活動局というのができました。北条地区には聖カタリナ大学さんがありますが、学生が参画してイベントの補助を行っています。イベントは物を運ぶのに力がいたり、実際に体を動かすことがあります。具体的には「かざはや楽市」というイベントの手伝いや、留学生にまちづくりに参加してもらって、留学生の交流事業を実施しているほか、まちづくり協議会の事務局長さんが大学に出向いて、まちづくりの取り組みをお話する機会も設けていますので、各地区で大学生がいるところは、そういうまちづくりができてきています。松山市全体的な話では、52万人市民の中で、大学4つがあります。他の19市町では4年生大学がありません。これは松山の特徴ですし、また20も専門学校があります。学生さんの数が約2万人います。人口減少といわれる中で、若者世代がいるということ、また大学はそれぞれに得意分野を持ったシンクタンクなので、松山にとっても桑原にとっても大事な存在ですので、大事にさせていただきたいと思います。私は県外の大学に行って下宿をしていました。大人になって、30、40、50歳になったら、大学時代にふと帰りたくなる時があるんですよ。「あのおばちゃんがやってた店どうなってるかな」とか、「近所のおばちゃん、おいちゃんどうしているのかな」と思うときがたぶん来ると思います。そのときに、また桑原を思い出してもらったらなと思いますので、この4年間で密接に地域の方と関わってもらったら、人生も豊かなものになるのではないかと思います。

【男性】　学生さんが言われた「もう少し早く予定が知りたい」というこ

とは、当然私たちの発信が足りないということだと思います。私たちも新しい家に声掛けにいきますが、そこで、実際に上がってくる言葉が、「時間がない、忙しい、そこまでの余裕はない」というのが現状です。興味を持って出てきてくれる方がたまたまいっぱい集まっているところは、多く集まりますが、いないところは少ないままです。また、同じ年代でずっときて、その下がないのが現状で、これは桑原地区だけではなく松山市全体だと思うので、なぜそのようになっているかということも考えていただきたいなど、その辺をどう思っているのか聞かせてください。

【市長】 就任させていただいて5年4カ月ですが、桑原地区はまだ恵まれているほうだと思います。桑原のお祭りは、ものすごい数の神輿が出られていますね。当然若い方も参加されています。地区によっては、お神輿がかけないから、軽トラの荷台にお神輿を乗せてというところもあり、松山ではまだ皆さんかかれますが、そういう中で、桑原地区はまだ恵まれているかなと思います。防災に関するイベントやお祭りや運動会や文化祭など、人が集まる中で私は、「顔は見たことあるけど話したことない方はいるでしょう、この機会に話してみてくださいね」と言うんです。そういうイベントのときに話しかけてもらおうと、ひとつのきっかけが生まれますので、その積み重ねです。よく言われるのは、忙しいというのは言い訳として使いやすいんですよね。言い訳として出ているのかなと思います。今、町内会の加入率は全国でも減ってきています。その中でも、桑原地区は、アパート・マンションがいっぱいだという地区ではなくて、比較的一戸建ての住宅が多い地区なので、まだ恵まれているかなと思います。子育てでも、若い夫婦が抱えるようにして子育てするとしんどいです。介護も抱えるようにしてしまうとしんどいです。防犯もみんなの関心がなくなるとしんどくなります。介護にしても、子育てにしても、防犯にしてもつながりがあるほうがいいので、行政としても「町内会に入ったほうがいいんじゃないですか」とおすすめてはしていますので、同じ思いだと思いますので、一声かけていただいて、できるだけ接していただいて、つながりを深めていっていただいたらと思います。

【市民部長】 続きまして、市民部からお答えいたします。若い人たちが忙しいとか時間がないと言うのはやはり参加して楽しくないからじゃないかと思います。ここから少し私見ですが、なぜ楽しくないかっていうと、その地域の集まりは、定年制がないですから、お年寄りの方々が仕切っているような体質があって、若い人の声が届かないところもあるんじゃないかなとも思いますので、若い人の意見を取り入れるのもその会の中では必要だと思います。それと若い人たちを引っ張り出す方法ですが、桑原のまち

づくり協議会には、学校支援部がありますね。名簿を見ますと元PTAの役員の方々が部長や副部長に就任されていますけれども、これはほかの地区からすると画期的なことじゃないかなと思います。若い世代を引っ張り出すキーワードは、PTAじゃないかなと思います。子どもが小学校・中学校にいる間にPTAの役員をする、でも卒業してしまうと学校からも離れるし、地域からも離れて活動しなくなるという、こういう人材を放っておくのは、非常にもったいないことじゃないかなと思います。この方々をまちづくり協議会に引き込むシステムが確立されることによって次世代の役員という人づくりができていくんじゃないかなと思います。私は浮穴校区ですけれども、以前に9年ほど小学校のPTAの役員をしていました。役員時のOB会で、時々お酒を飲んだりしますが、酒を飲んでいるだけでは、何の貢献にもならないなということで、何か地域や学校に貢献できることをしようということで、会をつくりました。毎年、定期的に行っていることは、小学校の運動会のときに、かき氷を販売しています。なぜかという、お昼休みは、役員のお母さん方は子どもさんがいらっしゃるわけですから、一緒にご飯を食べたいけれども、役員だから交代で働かないといけないということは気の毒だなと思い、子どものいない我々がそれをすれば、現役の人たちは、子どもさんと一緒に過ごせるんじゃないかなということでやっています。少しずつれますが、若い人を地域で活用していくには、PTAの役員を経験した方を後々まで引っ張っておくのが有効ではないかと個人的な意見ですが思っています。

【市長】 私から、ほかの地区の動きをご紹介します。子どもが主体になる活動例ということで、伊台さんはコミュニティハイキングをやっていて、親子でハイキングをしたりバーベキューをしています。ピックアップして言いますが、坂本校区では地区内を走る駅伝大会をやっています。子どもが出るということは必ず親が付いてきますから、親の参加も見込めるということです。そして、素鷲地区では、どろんこ運動会といたしまして、田植え前の水田での泥遊び、綱引きなどをやっています。また、桑原では、農業体験、田植えや稲刈り、餅つきしたりしています。立岩、北条のほうに貫之山という山があるんですが、そこでみんながツツジ整備や花いっぱい運動などをやっています。案外、他の地区の動きを知らないのも、このようなことをやっているところもあります。実は祭りの補助をする方法もあるんです。市役所が直接ではないですが、自治総合センターが宝くじの収入を財源として、太鼓や神輿などの備品が購入できるコミュニティ助成事業をやっていますので、お祭りもちょっと補助してほしいということがありましたら、遠慮なく言っていただけたらと思います。

【男性】 先ほどの話とかぶりますが、町内会にしても、まちづくりにしても、今日来られている若い人は仕事をしていると思います。でも普通の方は、仕事をしているということが参加しない免罪符になっていることが顕著に町内会をやっているとわかります。部長さんが言われましたけど、「仕事をしている、リタイアしてもアルバイトをしている」ことが免罪符になって、なかなかしてくれない。私が言いたいことは、我々も努力してやるんですが、市役所とか教育で、もっと地域活動に参加しなさいよという教育なり、啓発の施策をやってもらいたいと思います。

【市民部長】 若い方々が地域に入るための市の取り組みですが、実は今年、地域力パワーアップ大会を松山大学で開催するようにしています。なぜ松山大学で開催するかというと、これからの地域のまちづくりに若い学生のと きから関わってもらうことが有効だろうということで、学生さんを巻き込むために、まずは、会場を大学にして学生さんに各地区のまちづくりの取り組みを見てもらおうということで、松山大学で開催するようにしています。それが学生への教育になるところかなと思います。また、市職員のことでは、自治体の職員は、当然地域の方々と直接接する立場ですから、地域に関わっていくというのは、私は採用条件ではないかと思っています。市職員は、言われるからではなく、やはり関わるべきだろうと思いますし、研修などの中でも、そういったことに触れていると思います。制度としては、ボランティアスタッフというのを今年度から名前を変えてしているんですけども、手を挙げた職員が地域でまちづくりのお手伝いをすることも進めています。

【市長】 私からご紹介します。町内会にできるだけ入っていただきたいので、町内会の役割を載せたチラシをつくって、転入者の皆さんにお渡しする転入セットに入れたり、支所に置いたり、また、町内会で配る場合にも、必要数をお渡しして町内会への参加を促しています。宅建協会さんにも入居者の皆さんにお渡ししていただくように協力を依頼しています。先ほど「学生さんのまちづくりを金銭面を含めて支援する制度がないですか」というお話がありましたが、今年度からつくったのを忘れていました。私の公約の1つだったんですが、若者のまちづくり提案を募集し、企業さんや市民の皆さんと一緒に審査し、よい提案であれば、お金を出しますから実施してくださいという制度をスタートします。大学生はもちろんのこと、高校生も小中学生も応募ができますので、ぜひとも応募していただきたいと思います。金額は5万円～15万円ということで、いろいろ額も検討しましたが、あまりお渡ししすぎても学生さんだからよくないということで、

5万円～15万円まで助成できるようになっていますので、ご応募いただけたらと思います。

【女性】 東雲短期大学の学生です。私は短期大学に社会人入学して2年になり、1年こちらの地区で過ごしていますが、短大の現状からいうと、結構桑原地区の方とつながっているのかなと私個人は思っています。ボランティアセンターがあるので、そこから清掃の依頼や淡路ヶ峠のハイキングなどの、いろいろな行事予定がメルマガで送信されてくるので、学生はメルマガ登録していたら情報は得られていると思います。また、生涯学習の機会があるので、桑原地区の60歳台の方が学習に来られている印象はありました。私個人が今やっていることですが、私の職業は看護師で、認知症に興味があって、松山市さんがされている100万人キャラバンの認知症サポーター養成講座を学校内で聞いています。ちょっとずつ校内の学生の人数も増えています。興味がある学生も個人個人で話すと高齢者と接する機会がなかなかないみたいで、そういうことを知りたいとか、ちょうどおばあちゃん世代が認知症だったり施設に入っていますという方もいるので、みんな結構まじめに話が聞きたいという方がいます。それでほかの聖カタリナ大学の介護福祉学科の人、医療技術大学や看護科の方や臨床検査の方などの個人がつながって、みんなで勉強会をしています。先ほどの話で、若者が集まらないということでしたが、たぶん情報を得る手段はたくさんあって、メールやラインとかが普及しているので、学校を通じてメールをもらったりや、行事に参加した学生たちが自分のフェイスブックであげていたり、ラインで友達に教えてあげたりというつながりはあると思います。個人個人のつながりは就職とかで切れてしまうとは思いますが、学校も2つあるので、学校とのつながりを持っていれば、学校同士のつながりで継承されてつながっていくんではないかと思います。大学生はアルバイトとかありますし、通っているところも、東雲大学でも南予や東予から電車やバスを使って通ってくる学生もいるので、時間的な制約があると思いますが、事前に時間を言っておくと、空けておくことも可能だと思います。また、大学の単位として認めていただける機会があったり、福祉マップもラインのスタンプをつくってみたり、学生が興味のあるようなことをちょっとずつやっていけば広まっていくんではないかなと思いました。

【市長】 今、認知症サポーター養成講座の話が出ました。これは、学生からすればおじいちゃんおばあちゃん世代だろうと思いますし、我々世代になると親世代だと思いますが、認知症サポーター養成講座を我々も受け



てほしいと思っていて、実は無料なんです。

【保健福祉政策課長】 保健福祉部です。少子高齢化、団塊の世代の方があと10年もすれば75歳になるということで、高齢者はますます増えています。それにつれて認知症の方もますます増えていくということで、高齢者の方が認知症になっても住み慣れたまちで住み続けてもらいたいというのが国の考えで、松山市もそういうことを考えています。そのためには、一人でも多くの皆さんに認知症に対する理解を深めていただきたいということで、認知症サポーター養成講座を開催しています。平成18年から平成27年12月までに延べ2万2千人の方に受講していただき、小中学校でも開催しています。この講座は、場所と人数を集めていただければ、市の職員または地域包括支援センターの職員がお伺いし、講座を開催します。それに関する費用は必要ありませんので、ぜひ積極的にご活用いただいて一人でも多くの方が認知症サポーターになっていただきますようお願いいたします。人数は、10人以上集めていただければ開催は可能です。介護保険課、また各地域の地域包括支援センターにご相談いただければと思います。桑原地区は、地域包括支援センター桑原・道後がありますので、そちらか介護保険課にご連絡ください。

【市長】 テキストや講師料は必要ありません。会場さえご準備いただけたら無料ですので、ぜひとも受けてもらったらと思います。私も防災士の資格を取らせていただいたんですが、防災士の資格を取ることによって、意識と知識は格段に変わりましたので、このような養成講座は無料ですから受けていただくのもよろしいのではないかと思います。

【男性】 先ほど市長から桑原の祭りは盛り上がっていると話をいただいたんですが、ちょうど私が神輿守という会長をさせてもらってしまして、突拍子もない話ですけども、できたら市長さんに来ていただいてあいさつでもしてもらったら「あ、市長さんにも来てもらえるんだな」ということで、小さい子どもたちも覚えていて、今後まちづくりのもとになるんじゃないかと思います。それとまちづくりの根本を考えましたら、今ちょうど熊本は震災で、大変な目に遭っていると思うんですが、松山のこの地区もいずれそうなるかもしれないので、危険が迫っているような段階です。私は畑寺ですが、この桑原公民館の畑寺分館は築30年くらい経っていて、耐震化とかで避難場所にはなっていない状態です。うちの地区だけではなくて、安心して地区で過ごすためのハード面の整備をしてもらったらと思います。

【市長】 お祭りのことは、体さえ空いていたら現地現場に行きたいほう

ですので。10月7日は、宮入とかも含めて各地区が重なるので、宮出宮入も含めて広めに時間をいただいていると行きやすくなります。時間さえ合えば行けますので、調整して行かせてもらったらいいなと思っています。

【生涯学習政策課長】 教育委員会事務局です。公民館は41館すべてが避難所に指定されています。また避難時の収容人員が比較的大きいことから早い段階で耐震性を確保する必要があると認識しています。そのため、本館については順次耐震化を進めており、平成29年度末までに完成する予定としています。分館については、この完了のあとにその後の取り組みとして検討したいと考えています。また分館の改修は費用の一部を負担いただいた上で工事をしている関係もあります。そうしたことから、分館ごと、地域ごとの状況を踏まえながら今後完了後に方策を決めたいと考えています。

【市長】 今、公民館本館が各地区に41地区あって、公民館本館が大きいので本館からまず耐震化をさせていただこうということで、29年度で本館の耐震化が終わります。つまり、30年の3月までで本館を終わらせてしまう。次に分館に入っていきたいなと思っています。本館と分館の違いで分館は地元負担、我々が75%出させていただいて、地元負担を25%だけいただく形になっているんですけども、その辺も含めながら改修計画を立てていきたいと思っています。

【男性】 まちづくりの教養文化部の部長をしています。私のやっている事業の中で異文化交流会というのを始めていますが、今年が5回目のイベントになり、愛媛大学農学部と東雲大学のインドネシア・韓国・中国・カンボジアの留学生と一緒に料理をつくるということで、最初は地域のまちづくりの人間だけで細々と交流していました。一昨年から学生部の一部の方と桑原中学校の学生を招待して一緒に料理をつくったり、自分たちの国を紹介しながら3時間から4時間かけてやっているんですけど、人数が50人ぐらいになりまして、本当は小学生も一緒に招待したいと思っていますが、なかなかスペース的な問題で今のところ中学生以上でやっています。市長が先ほど時間があれば出向きますということだったので、ぜひ交流をお願いします。留学生が屋台みたいな形で料理をつくったものを売ったりするのは地域でも時々あると思いますが、実際に中学生とか日本の学生たちが一緒になって自分の国の料理をつくって交流を図るというのは少ないと思うので、ぜひ一緒になって1回体験してみてもらったらなと思います。

【市長】 ぜひとも皆さん、留学生の方を大事にしてあげてくださいとい

う話を最後にさせていただいたと思います。考えてみたら国費留学生の方は国を代表して来ていますので、国に帰ってある程度の役割を期待されている方なんですよね。ですから、その方々に松山で過ごしていただけているということは、その国との関係の中でもすごく大事なことです。国費留学生でない場合、私費留学の場合はいわゆるある程度お金を持っていないと日本に来ることができませんから、富裕層の方で将来的にはその国で企業を起こしていくということも大いに考えられます。そういう留学生の方は国と国との懸け橋になることが期待をされますので、留学生の方もすごく大事にさせていただけたらと思います。北条にある聖カタリナ大学さんとタウンミーティングをやったときに聞きましたが、留学生の方は地震の経験が少ないので、ものすごく怖いんだそうです。起震車を持って行くことができれば、スペースの問題もあると思いますが、留学してこられた方にも少しでも揺れを体験していただくことができるとと思います。もしよろしかったら、我々のほうから起震車を持って行くことができたかなと思っています。時間がまいりましたので、締めとさせていただきたいと思います。まちづくり協議会さんともお話をさせていただきましたが、本当にまちのことを思っていないとこんな難しいテーマは出さないです。難しいテーマなので皆さんから意見がどちらかといったら出にくい項目ですけれども、1時間半ずっと皆さんと意見交換ができたのはすばらしいことだと思います。桑原地区では、福祉マップができていたり、フリーマーケットがされていたり、学生部の動きがあったり、青年の動きがあったり、ここ桑原地区というのは本当にすばらしいところだと思います。淡路ヶ峠もまさにそうですけども、松山の中でも先駆的な動きをされていてすばらしいところだと思いますので、ますますこの動きを伸ばしていただきたいと思いますし、我々も「桑原さんやってください」ではなくて、同じまちづくりのパートナーとしてしっかりとサポートさせていただきたいと思います。最後に申し上げますけども、淡路ヶ峠もそうであったように、地元の皆さんでできることがあります。行政がやるべきこともあります。そして、行政と地元の皆さんが力を合わせて、1 + 1 が、3 になり 4 になり 5 になるような効果をもたらすこともあります。ともにいいまちづくりという同じ目標に向かってまた前に進んでいければと思いますので、今日は本当にいい意見交換ができたと思っています。至らぬ点多々あると思いますが、これからもどうぞよろしくお願ひします。今日はありがとうございました。

— 了 —